［認知症対応型共同生活介護用］

調 査 報 告 概 要 表

作成日 平成21年 1月 24日

【評価実施概要】

事業所番号	（※評価機関で記入）4676500087
法人名	医療法人　たからべ会
事業所名	グループホーム　たからべ
所在地	曽於市財部町下財部1318－9 （電　話）0986－72－1677

評価機関名	特定非営利活動法人　福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂本町27－5前田ビル1F
訪問調査日	平成21年1月24日

【情報提供票より】（20年10月　1日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成　16　年　12　月　20　日	
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計　9　人
職員数	8　人	常勤　8 人，非常勤　0 人，常勤換算　8 人

（2）建物概要

建物構造	木造平屋　造り
	階建ての　階　～　階部分

（3）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（平均月額）	30,000　円		その他の経費（月額）	実費
敷　金	無			
保証金の有無 （入居一時金含む）	無		有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	200　円	昼食	350　円
	夕食	350　円	おやつ	円
	または1日当たり	円		

（4）利用者の概要（10月　1日現在）

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	1	名	要介護2	4	名
要介護3	0	名	要介護4	3	名
要介護5	1	名	要支援2	0	名
年齢　平均	86.2 歳	最低	76　歳	最高	96 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	りゅうえいクリニック、財部記念病院、宅間歯科医院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

都城市に近い丘陵地帯に、民家に溶け込むように建つホームである。 医療施設を関連機関に持ち、認知症に理解を持つ医師の協力が得られ、迅速で適切な助言が得られるため利用者や家族にとって大きな安心感がある。さらに、職員や利用者の入れ替わりが少なく、関係作りが進み家庭的で落ち着いた雰囲気が感じられる。時には家族や職員と公園や田園へ出かけ五感に刺激を受け、ホームの敷地内に植えられたグリンピース、トマト、ピーマンやブルーベリーの手入れや収穫などを楽しみながら穏やかに暮らす利用者の姿がうかがえた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①

前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）

昨年度の評価結果は運営推進会議で参加者に報告するとともに、職員ミーティングで話し合っている。「理念」は「地域住民の一員として生活する」考えが盛り込まれた。「人材育成」は施設外研修の受講を事業所として推奨しているが、さらに施設内研修の計画的な実施が求められる。「災害対策」ではより実践的な訓練と食品等の備蓄の検討が期待される。

今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）

日々の業務を振り返る良い機会と受け止めている。職員一人ひとりが考えて記入し、その後ホーム全体の結果をまとめている。

重点項目②

運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）

家族・地域住民代表、市、社協などからの参加がある。事業所の報告のみではなく、出席者からの意見や助言などが出され今後の運営に活かしている。

重点項目③

家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）

金銭管理状況と利用者の様子を載せたホーム便りを毎月家族に配り、利用者の健康状態に変化があった時にはそのつど電話等で家族への報告を行っている。苦情相談窓口については玄関に掲示しているが、家族の訪問時にも声をかけるようにしている。また、把握した苦情は管理者や他の職員と共有し解決を図っている。

重点項目④

日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）

運営推進会議への地域の方の参加、小学校の運動会への参加により地域との交流に努めている。さらに、設立時に理解を得にくかった近隣の方々と少しずつコミュニケーションがとれるようになり、現在では災害時に協力を得られる体制ができるまでになっている。

調 査 報 告 書

（ ▒ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	昨年の外部評価の結果を受け、地域密着型サービスとしての役割が意識できるように職員が話し合い作り上げた理念がある。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の業務の中で理念を意識して介護に取り組んでいる。また、作成された理念が職員や来所者の目につくように掲示を工夫している。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議への地域の方の参加、小学校の運動会への参加などにより地域との交流に努めている。さらに、設立時に理解を得にくかった近隣の方々と少しずつコミュニケーションがとれるようになり、現在では災害時に協力を得られる体制ができている。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年度の評価結果について運営推進会議で参加者に報告するとともに、職員ミーティングでもできることから改善するように話し合っている。評価結果は誰もが閲覧できるように玄関に設置されている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族・地域住民代表、市、社協などからの参加がある。議事録より、事業所の報告のみではなく、出席者からの意見や助言などを今後の運営に活かそうとしている事業所の姿勢がうかがえる。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当窓口や福祉事務所などへ事務手続きやその他の機会に訪問し情報交換を行うなど、協働してサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、金銭管理状況と利用者の様子を載せたホーム便りを家族に配り報告している。利用者の健康状態に変化があった時にはそのつど電話等で家族への報告を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口については玄関に掲示するとともに、利用開始時には文書により家族にお知らせしている。また、職員が苦情等を把握した時には管理者や他の職員と共有し解決を図っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者や管理者は職員の異動による利用者への影響を考慮し、多数の異動がないように配慮している。昨年の異動はなかった。		
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	昨年の外部評価で取り組み項目にあがった施設外研修については職員に紹介し、受講費用の負担を事業所が行うなど、事業所としての配慮を行っている。ただ、施設内での研修については計画的な研修体系が整っているとは言いがたい。	○	地域密着型サービスの質は、非常勤やパート職員も含む個々の職員の質によって成り立っている。全ての職員が、各自の立場、経験や習熟度の段階に応じて学べるような機会を、事業所として計画的に確保することが求められる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区の連絡協議会設立に向けて話し合いが行われる中、他のグループホームとの交流が図られている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス開始前にケアマネジャー等の関係者と連絡を取り、必要があれば自宅での面談を行っている。また、入居後もホームの雰囲気に徐々になじめるように家族の協力を求めながら支援を行っている。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員と利用者が過ごす中で得意なことや好きなことを見出し、声をかけ、協力しながら暮らしている。訪問時も一緒に調理の下ごしらえや談笑する風景が見られた。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用開始時には本人や家族、その他の関係者からどのように暮らしたいかを聞き、介護計画に活かしている。入居後は日々のかかわりの中で本人の意向をくみ取り、ケア会議などで職員間で共有している。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の希望を踏まえ介護支援専門員と職員が話し合い介護計画を作成している。主治医とは連絡ノートを作成し、丁寧に連絡を取っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画について毎月モニタリングを行い、変化の兆しがないか見直し、まとめている。利用者の状況に変化があり介護計画の見直しが必要な時には、ミーティングを開いて計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院介助や家族の宿泊、利用者の入院中の面会や早期退院に向けての支援など臨機応変に対応をしている。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人や家族の意向を大切にして決めている。受診時は連絡ノートを活用するなど確実な情報伝達に努めている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期についての指針が作成され、入居時に説明し同意が得られている。また、その後も本人や家族、かかりつけ医と相談し職員の共有も図っている。		
１．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	事務所に個人情報の保護方針や利用目的についての掲示があり、記録物は外来者の目に触れないように事務室に保管している。利用者への日頃の声かけについては個人を尊重しながらも親しみが持てるような声かけをしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れは本人の体調などを配慮し、外出やリハビリなど本人の意向を確かめながら決めている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	パンフレットやチラシを見ながら食事の希望や食欲を引き出す工夫をしたり、旬の食材を利用し、下ごしらえを一緒に行うことで食への興味を持ってもらうように努めている。食事は職員も一緒に会話を楽しみながらとっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	決まった入浴日があるが、それ以外の日でも入浴やシャワーなどの対応ができる。入浴を嫌われる方にはできるだけ声かけを工夫し気持ちよく清潔を保つようにしている。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の支度や洗濯物の片づけ、草取り、漬物つくりなど、一人ひとりの生活歴や力を見つけ出し、支援に努めている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームのすぐそばを県道が走り、外出に気を配る必要があるが、本人の希望を聞きながら、ホーム敷地内での外気浴、近くの田園や公園、外食に出かけたりと、機会を見つけて楽しみの時間を提供している。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、昼間は自由に玄関から外出できる。外出されるときには職員がさりげなくついて出たり、見守りを行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練と消火訓練を年に1回ずつ行っている。また緊急時のマニュアルを作成し隣人や地域の方への協力を呼びかけ、施設外へ向けての非常ベルを取り付けている。ただ、非常時の備蓄は十分とは言いがたい。	○	地区住民の参加や協力を得ながらのより実践的な避難訓練の実施と、食品や飲料水などの備蓄についての取り組みを期待したい。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量や水分摂取量は個人別の記録に全員記録され、排泄状態も参考にしながら健康状態が把握され、より快適な生活が送れるようにケアに活かされている。		
２．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （１）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には花が飾られ、玄関脇の椅子や居間の奥の掘りごたつは思い思いにくつろぐことができるスペースとして確保されている。食堂は日差しが差し込み明るく、台所の料理の様子も感じられ五感を刺激している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳を自由に敷けるようになっており、個人のものが持ち込まれている人もいれば、シンプルな部屋もある。部屋には写真やお便りなどが飾られ居心地よく過ごすことができるような配慮が感じられる。		